

## 平成28年度第1回津島市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成28年8月10日（水）  
午後3時00分から午後3時48分まで
- 2 場 所 市役所3階 市長公室
- 3 出席者 （構成員）市長、教育長、教育委員  
（事務局）市長公室長、教育委員会事務局長、企画政策課長、  
学校教育課長、社会教育課長ほか担当職員1名

- 4 議 題 （1）防災教育について

- 5 内 容

○開会

○あいさつ

○議題

### （1）防災教育について

- （事務局）
- ・学校における防災教育について、西小学校を例に挙げ、どういったことをしているか説明した。
  - ・年4回の避難訓練を行い、児童が安全に避難できるよう避難経路、集合場所を確認している。
  - ・不審者侵入時における行動の仕方、地震が発生した際の対応の仕方を指導している。
  - ・緊急時に児童が安全に帰宅できるよう、学校に保護者が迎えにきたときの児童の引き渡し訓練等の指導をしているとともに、風水害についても学級指導を徹底している。
  - ・着衣泳を実施し、水難事故の際に安全確保ができるよう指導している。
  - ・先生と生徒が通学の経路上で浸水しやすい場所、車から見え

にくい場所等の危険箇所を聞き取りや話し合いによって確認しあう通学団会議を実施している。また、PTA役員や保護者が通学団に同行し、危険箇所の把握等に努めている。

- ・「第3日曜日は家庭防災の日」について、各学校の校内放送等で周知しているとともに、啓発資材の全戸配付もしている。啓発資材には津島市防災情報カードがついており、非常時の緊急連絡先として、家族・親戚・知人等の連絡先を記入し、携帯していただくよう周知している。
- ・防災備蓄について、各小中学校には現在、ある程度の備蓄がしてあるが、北小学校近くの元みどり幼稚園にも、相当数が備蓄されている。当然、災害時には近い距離の中で運ぶことが必要となってくるため、元みどり幼稚園にある備蓄品を各小中学校に分散させる予定である。
- ・津島市防災ハザードマップについて、地震や風水害による各被害の想定や避難場所が小学校区ごとにまとめられている。このハザードマップは各小中学校に配付されており、学校の先生等からこういったものを利用して防災教育をしている。
- ・中学校1年生に対して、防災リーダー育成教室を実施予定である。中学生にも発災時に率先して活躍していただきたいという趣旨のもと、消防本部が開催するものである。教室の内容としては、自助ということで、家具等の配置と固定次第で家の中の危険性が変わることを学んだり、共助ということで、三角巾・心肺蘇生の応急処置や倒壊家屋からの救助方法を学んだり、公助ということで、避難所とはどういうものなのかの体験をしたり、備蓄品の試食をしたりするものである。

(教育委員) ・備蓄品の数について、学区内の人口割や世帯割ではなく、均等割のように思えるが、人口の多い学区では、備蓄品が不足してしまうのでは。

(事務局) ・あくまで案の状況であり、今後の検討により変えていく予定である。

(教育長) ・防災教育を進めていく上では、学校と地域と家庭と3つの視点から考えていく必要があるかと思う。学校については、事務局から説明のあったとおりであり、安全指導の中で防災教育を行っている。学校行事や各教科、学級会、児童会等の様々など

ところで学校が機会を作ってくれている。「第3日曜日は家庭防災の日」については、給食放送や廊下に掲示して、周知しており、ハザードマップについては、PTAの皆さんと協力して、版を大きくして校内に掲示したり、通学団会議において活用したりしていると聞いている。

- ・家庭については、平日は学校にいる時間と家庭にいる時間を単純に比較すると、3分の2は家庭で過ごす。学校が休みの日においては、1日家庭で過ごすわけで、家庭にいる場合の防災教育は家庭がすべきであると考えている。家族会議であるとか、緊急地震速報があった時にどうするとか、災害時の伝言ダイヤルをどうやって使うかを家庭で1回やってみるだとか、あるいは、地域の消防署等が開催する防災講座や体験学習に親子で参加するとか、そういうことが家庭の役割だと思う。
- ・地域については、自主防災会等が各地で活躍をしてくださっているが、そういうところを育てることや、学校等と連携していくことが、大事かと思う。
- ・先程、事務局から中学生の防災リーダーの説明もあったが、中学校は少年消防クラブというものがあり、これも防災に関わる青少年が果たす役割の意識づけをしてもらっている。
- ・もう1点、学校における避難所経営の在り方について、土地が低いところであるので、体育館に避難された方でも、水が来たら校舎の中に寝泊まりをしていただくことが想定される。そういう時の市の職員や学校の職員の役割、ボランティアや地域の皆さんの働きを想定しながら訓練をしていくことが大事だと考えている。幅が広く、やらなければいけないことばかりだと思うが市長の考えもいただきながら、学校としても防災のマニュアル等をまとめていくことが必要である。

- (市長)
- ・津島市の防災教育については、徐々にレベルアップしていると考えている。この地域は海拔0メートル以下であり、子どもたちの命をいかに守るかが重要である。ハザードマップについては受け入れがたい事実だが、これを受け入れてやっていくしかないと考えている。大きい災害があった場合は、日光川はまずもたないと考えるべきで、逃げる必要がある。
  - ・学校での防災教育は非常に大事と思っており、子どもたちが学

校で学んだことを家庭でも広めていただけるような取り組みを徹底することで、被害を少しでもなくすようにすることが重要と考えている。

- ・家庭と地域が連携した実践的な防災教育を行っていかねばならない。これについては、まだできていないと考えているので、これをどうしても行っていかなければならない。
- ・避難場所について、体育館については恐らく浸水するので、校舎の2階以上を避難場所にと学校にお願いして、避難場所の確保をしているが、民間の施設を活用した避難場所の充実ということで、一昨年ぐらいから精力的に多くの企業に働きかけて、協定を結んでいるところである。
- ・常日頃から防災の意識をさせることが必要であるとする。

(教育委員)

- ・備蓄品の件で、スマートフォンや携帯電話を充電するために大きな電源タップを用意しているというのをテレビで見たことがあるが、津島市ではそういったものの備蓄予定はないか。

(事務局)

- ・水や食糧等の最低限必要になるもの以外については、各自で備えてもらうという考えである。

○その他

(事務局)

- ・次回の津島市総合会議の開催については、決定次第連絡する。

○閉会